

バンコク PPTQ ミネアポリス 参加記



2018/1/20 (土)

NX gallery

昔よりはだいぶ円安になったものの、 タイは安くておいしいものが多い国

※写真には別に安くないものや食べ物でないもの、筆者が利用していないものも混ざっています



目次

この本について	2	タクシーが盛大に迷走	13
プロツアー予備予選 (PPTQ) について	2	トコロ風呂	15
バンコクで開催される PPTQ への参加を決める	2	NX gallery に到着	16
バンコクの航空券と宿の購入とビザの申請	3	構築開始	17
		惨敗	18
		フワイクワーンでマッサージ	19
2018 年 1 月 19 日(金)		ステーキで夕食	20
バンコクへ	5	プロムポン駅前をぶらつく	21
なぜあなたがここにいるのですか	5		
タクシーで市内へ	6		
ホテルに到着	7	2018 年 1 月 21 日(日)	
フーターズへ	8	帰国日の朝	22
帰って就寝	9	ホテルの朝食	22
		のんびりしてからチェックアウト	23
2018 年 1 月 20 日(土)		本屋に寄ってからウイークエンドマーケットへ	24
ホテルの朝	10	マーケットで似顔絵を描いてもらう	24
BTS に乗る	11	バスで空港へ	25
ウイークエンド・マーケットで遅い朝飯	11	搭乗手続き	26
ウイークエンド・マーケットでぶらぶら	12	フードコートで昼食	27
古本屋など	13	帰国	27

この本について

本書は2018年1月20日（土）にタイ（バンコク）のNx Galleryにて開催されたマジック・ザ・ギャザリングのプロツアーミネアポリス（25周年記念）予備予選（PPTQ）にプレイヤーとして参加した筆者の記録です…が実のところほぼ「バンコク観光記」ではあります。現地の金額表記はバーツ（THB）で行いました。為替レートでは1バーツ=3.5円くらいだったようです。感覚的には「300バーツ千円」で使いましたが、これだと実は若干多く払っています。

プロツアー予備予選（PPTQ）について

PPTQ（プロツアー予備予選）というのは、新セットの発売に合わせて3か月に1回開催される「プロツアー」の地区予選（RPTQ）に出るための予選です。

プロツアーは世界中のトッププロが集まるマジックのお祭りであり地区予選もそれなりに大きな大会になりますが、予備予選というのは「その辺のお店」で開いている大会です。まあ今回に関しては明らかに観光目的でマジックはそのついで、ではありました（笑）。自分が参加したのは会場はNx Galleryというバンコクのショップ（※1）開催のものです。

※1 <https://www.facebook.com/NxGallery/>

バンコクで開催される PPTQ への参加を決める

PPTQは3か月ごとに日本全国で何十回も開かれるイベントで別に目新しくはありません。権利欲しさに遠征する人がたまに出るのが珍しいくらいのローカルなイベントです。従ってPPTQに参加するために国境を越える…というのは、まあ普通はないですね（笑）。しかし2017年の5月から筆者が赴任しているミャンマーという国は「マジックが売っていない国」であり、基本的に海外GPに行くしか紙のマジックでは遊べません（MOは可）。そして筆者は人気の観光地タイには興味があったもののGPバンコクは2013年を最後に

開かれておらず、海外は GP 旅行で遊びに行くスタイルの筆者は、これまではバンコクに行く機会がありませんでした。

ミャンマーとタイは隣国で飛行機では 2 時間かからない近さなので、同僚などはビザ切り替えの都度にバンコクに遊びに行っているのですが、ビザ切り替えは海外 GP 参加で済ませている筆者にその必要はありません。そして筆者のミャンマー赴任は 2 月末までであり、どうやら正月に日本に帰った以上、もうビザ切り替えの必要もなくなったようです。

ミャンマーの就労ビザは 70 日の期限があって、期限が来る前にミャンマー国外に出て再発行して貰ったビザで再入国する必要があります。

しかしそろそろ帰国の予定などを立て始めている 1 月 16 日、ふと「これだけ行きやすい今、このままバンコクに一度も行かないのは**勿体ない**のではないか」という思いが立ち、さらに「いっそタイで発売されたばかりの『イクサランの相克』のシールドで遊べる店はないかな、もう一週間早く気がつけばプレリに参加したのに」とか思いながらも「店舗・イベント検索（※ 1）」でバンコクで検索をすると「1 月 20 日 PPTQ シールド開催」の情報が。これで基本的にこの週末にバンコクに遊びに行くことは決定しました（笑）。

※ 1 <http://locator.wizards.com/>

バンコクの航空券と宿の購入とビザの申請

店舗 Facebook に「予約」の一報を入れたのち、航空券とホテルの検索をいつものように開始します。

まず LCC 安売りサイトで一番安いフライトの検索を試みると、サイトでは「今週末」のチケットはもう買えなかったため一週間後の日付で検索すると「タイ・ライオンエアー」がヒットしました。インドネシアのライオンエアーとタイの会社の合併 LCC のようです。金曜夜と日曜夜に移動して、往復で 100 ドルほどで買えそうです。これだな。

そこで帰宅して PC を起動して同社サイト（※ 1）に移動して、該当のフライトに情報を入れてぽちったところ**決済失敗**。もしかしてクレカが停止されたのかとか色々調べるも、

どうやら「日本のクレジットカードはこのサイトで決済できない」という結論に。

※ 1 <http://www.lionairthai.com/en/>

安売りサイトでは今週末の便は買えないしどうしたものか…と思ううち、ここで**近所の旅行代理店**で購入するのはどうか、という案が浮かびます。まだ 19 時。利用する気はなかったが旅行代理店の看板は見たことがある…ということで服を着て外出。ありました。店員は用件を伝えると即応し、店の PC で再検索し、こちらの探したのと同じフライトを出してきて「このフライトなら 105 ドルで買えます」と伝えてきたので即応。自分でネットで買っても 100 ドル弱で手数料 10 ドルは想定内。自分のパスポートを渡して情報などの入力を依頼して購入、ミャンマー通貨による決済。プリントアウトを貰って終了。

その後でネットで調べたところ、やはり「タイ・ライオンエアーのサイトでは、日本のクレカでは決済はできない」というのは多く報告されていました。

あとはホテルです。バンコクの地理はまだ全然分からなかったものの愛用しているホテル予約サイト booking（※ 1）で調べたところ、バンコク東寄りの繁華街スクンビット（Sukhumvit）地区のナンダ（Nandha）ホテル（※ 2）というのが目を引きました。1 泊 1 万円がずらずら並ぶ中で 1 泊 6 千円。探せばもっと安宿を攻められたかもしれないものの、まあケチるほどの金額ではないかなと即応し、その場でクレカ決済。

※ 1 <https://www.booking.com>

※ 2 <https://www.booking.com/hotel/th/home-place.ja.html>

さらにミャンマーに戻ってくるためのビザを申請し、申請料 60 ドルを払います。正直な所これが一番無意味な出費に思える部分です。

そんなこんなで総額 3 万円ほどの支払いを終え、あとは準備して出発するのみです。

2018 年 1 月 19 日（金） バンコクへ

必要な荷物は着替えくらいしかないのでリュックに詰めて出社。退社後はホテルに戻らずにこのままタクシーに乗って空港に向かう算段。

フライトは 19 時 25 分発。従って 17 時に定時退社で普通に間に合うとも思えたものの、仕事も押していないので余裕をもって「私用で 16 時に早退します」と申告して退社。

タクシーを拾う。料金 5000 チャット（約 500 円）を提示してきたので即応。

荷物の中に会社の PC も入れる。まあ今回に関しては緊急時にホテルで仕事をするというよりは、日記をつけたり、あるいは USB チャージのベースにするという側面から。仕事する気なしというよりは、今は休日を潰すほどの仕事が別れない状況です。

ほとんど渋滞にあわずに 16 時 40 分には空港に到着。早退までする必要はなかったかな。ともあれ発券を終えペットボトルも飲み干し 17 時過ぎにイミグレとセキュリティを通過。

予定のフータースタ食は 5 時間後にはなるだろうから軽く夕食にしよう。メニューがかぶるがバーガーキングへ。ワッパーセット 1200 円。山の上価格。満腹して 18 時。スマホをいじりつつそのままのんびりとコーラを飲み飲み。



フライトまであと 1 時間くらいになったので、飲み残しのコーラを捨ててゲート前に移動。途中売店で機内飲み用のポカリスエットのペットボトルを 2 本。1 本 2 ドル。500 円。19 時に搭乗開始。なにごともなく離陸。

なぜあなたがここにいるのですか

1 時間ちょっとでドンムアン空港に到着。時差の関係から 30 分時計を進めて、21 時過ぎ。入国したことは無かったものの見知った空港内をずんずん進み 15 分後にはイミグレに。

イミグレの列で声をかけられたので振り向くと、後ろに同僚の M 氏。M 氏はビザ更新のための出国としてこの週末にバンコクに来て、同じ便であった模様。いささか驚く。今回の自分のバンコク旅行は別に隠す気はなかったものの（現地スタッフにはビザ発行のための招聘書を発行して貰ったし）有休を申請するでもなく緊急メールは受け取れるので、日本の上司に事前連絡とかは入れなかったのですが、M 氏は自分の上司筋ではないものの、ミャンマー事業所の責任者でもあったので「君が早退した理由を誰も知らなかったよ」「ああ招聘書の発行の際に〇〇さんに伝えたのですが」「出国するなら伝えてくださいね。トラブルで**帰ってこれなくなる**可能性もあるんだし」とお小言。てへぺろ案件。

タクシーで市内へ

それはそれとしてバンコクに何度となく来ている M 氏と遭遇できたので大変に楽な展開になった。そのまま自分で探す必要もなく ATM と SIM 売り場とタクシー乗り場へ。ATM は 1 万バーツの次が 2 万バーツ。2 泊 3 日とはいえマジック関係の買い物もするし、1 万バーツでは足りないかも？と思って 2 万バーツおろすと「市内どこでもおろせるのに、そんなにおろしたんですか」と驚かれる。うんまあ確かにやや多めだと思うけど、この間シンガポールで夜間 ATM がおろせなくて悶絶したしなあ。結果的にやはり余ったけど。

実際、バンコク市内には確かに「24 時間 OK」の ATM がそこらにありました。やはりバーツは余ったので利用はしませんでしたけど。手数料はおろす都度かかりますし。

21 時 46 分、SIM を 299 バーツで購入して通信の確保。ここではキャリア窓口でセットしてくれました。HUAWEI のスマホは SIM 取り出しにピンが必要なので助かりました。ホテルを聞くと向こうもスクンビット地区のホテルだったので、ではタクシーは相乗りの折半でという話がすんなり成立し、22 時過ぎ、タクシーに乗車して市内へ。ネットで調べていた通りに、タクシー代と別に高速料金を払います。70 バーツだということで 100 バーツ札を出すも、後で数えたら釣銭が 20 バーツ札しかありません。多分 10 バーツを運ちゃんが**ちよろまかした**のだと思う。高速を出るときにもう 50 バーツ。

ここからが酷い渋滞でなかなか進まないが、焦っても仕方がないのでグーグルマップで現在地を確認しつつ「フーターズはこのへんかなあ」とか思いつつ通り沿いの店を眺める。互いのホテルの位置から、自分がまず降りて、M氏が支払い、精算はミャンマーに帰ってからということになりました。無問題。23 時前に自分はタクシーを降りる。

帰りの便は別であり、特に滞在中に M 氏と連絡をつけたり遭遇したりすることはありませんでした。夕食に誘われたらフーターズどうするかな？と思ったところでしたが。

ホテルに到着

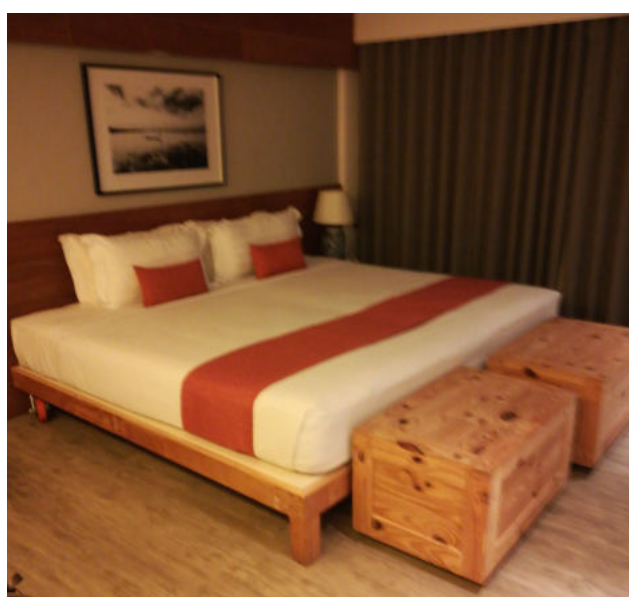
ホテルを目指しスクンビット 33 番通りを北にতেくてく。すぐ夕食に出るので入らなかったものの、コンビニの位置を確認。風俗マッサージの店も多くあり、入口にたむろしている女性が声をかけてきます。

5 分ほど歩いて目的の店に到着。
グーグル先生は本当に偉大です。

チェックイン。料金は全額支払い済みだが、デポジット 1000 バーツを要求されたので支払います。まあ戻ってくる金です。

カードキーを受け取りエレベータで 5 階へ。503 とあるが部屋番号がドアに無いので、手近なドアに**手当たり次第に**かざして開いたドアに入室（笑）。

うん、部屋は悪くないですね。



フータースへ

23 時を回っているので夕食にする。フータースは午前 2 時までやっているそうなので、慌てる必要はないけど、もう普通に夕食にしてから寝るべき時間ではあります。

スクンビット通りまで出してから北西へ数百メートル歩き、ラッチャダーピセーク (ratchadaphisek) 通りとの交差点を横切り、23 時 40 分に到着。夜遅くても賑やかな通りを歩くのは楽しかったけど、20 分はかかったから、帰りはタクシーでいいや…。



入店。雰囲気は割と気に入りました。

料理はまだ数時間前のバーキンが少し腹に残っていたので軽めにしようとチリ・アンド・ライスをコーラと一緒に頼んでみる。239 バーツ。

…ちょっと物足りないかな。チリソースベースというか基本これは**ただのカレー**だ。安いし。牛肉が入っているという触れ込みだけど、食べても豆ばかりだし、これはランチメニューです。

やっぱ**肉が食べたい**ということで、残り腹具合と相談しながら、ポーンレスチキン 6 ピースを注文。



チキン到着。よし、このくらいならばどうにか残さず完食できるでしょう。もぐもぐ。

チキンおいしゅうございました。
(なおカレーライスは少し残した模様)



あとはグッズ。いつものマグカップと、土産のショットグラスとTシャツ。マグカップとグラスは半額セール。グッズと合わせて総額 1420 バーツ。まあそんなもんでしょう。

ダンスタイムは無いようだけど、雰囲気はなかなか良かったですタイのフーターズ。零時半に退店。

帰って就寝

タクシーを拾って 33 番通りの入り口で降りる。目の前にファミマ。ぼくらの知ってるファミマとはだいぶ違うスーパーのような入口にびびる。
(なお、奥は見慣れたファミマの陳列でした)

零時を回ったのでさすがに風俗客引きも少ない中をホテルに戻る。ファミマでつまむものなど買うも、ろくに手を出さずシャワーと就寝。



2018 年 1 月 20 日（土） ホテルの朝

7時半に目が覚める。シャワーを浴びてから、だらだらネット。ホテル Wifi の質が大変よく、ストレスを感じない。

5階（最上階）からの眺めも悪くないし、いい部屋です。部屋もベッドも広い（まあ2人部屋ですが）。シャワーのお湯が出てエアコンがちゃんと効いてテレビもついて冷蔵庫もある。

これは快適だ。どれだけこれまで**安い部屋**に泊まっていたのという話ではありますが（笑）。実際、攻めれば市内一泊 1500 円くらいの宿が取れそうな所を 6000 円払ってはいますが。周囲の宿はみんな 1 万円以上でしたけどね。CATV はチューナーの操作に癖がありチャンネル合わせに苦労しましたが、アダルト系のチャンネルもなさそうだし、別にいいです。



洒落たテーブル。最初は、貸し出し用の自転車が部屋の中に置いてあるのかと思いました。ホテル看板（P.7）にも自転車が描いてあるし、たぶんオーナーの趣味なんだろうな。

フロントで自転車レンタルもやっているのかな？とも思うも、地理の分からない市内で自転車にチャレンジはハードルが高いので見送る。

リュックの中から今日使用するものだけを残して、残りを室内に置いて荷物を軽量化する。

先月のシンガポールで歩きすぎて足を痛めたので

（GP シンガポール 2017 本参照）、日本から持ってきた足の保護パッドを、靴下の下で装着したうえで、ネットを切って 9 時前にホテルを出る。

BTS に乗る

スクンビット通りまで出て今度は左に曲がり、BTS（高架列車）プロムポン（Phrom-phong）駅へ。何やらオタク本屋らしい店があるが、まだ開店していないので素通り。

階段を上って券売機へ。券売機の表示が地図形式でなく駅名だけだったのでまごつくも、いまいちどウィークエンド・マーケットへ行く最寄り駅がモーチット（Mo Chit）であることを確認のうえで券売機へ。44 バーツ。



券売機が硬貨しか受け付けなかったので窓口で支払って切符を購入し、9 時 10 分に乗車。

だいぶ結構な満員電車ぶりだったものの、駅につく度にひとが降りて、ついには座れた。

モーチット駅は終点なので、あとはこのまま乗っていればよろしい。

そして9 時 42 分、BTS はモーチット駅に到着。

ウィークエンド・マーケットで遅い朝飯

モーチット駅を降り地図で確認しつつ人波に従って歩いていたら、だんだん露店が増えてきてマーケットらしい区画に到着。

途中の露店で定番「I Love BANGKOK」のTシャツを購入。言い値で 100 バーツ。

朝食も取っておらず空腹なので、手近な飯屋に入りメニュー写真を見てバジルポーク 100 バーツ。

350 円ならそれほど格安でもないよなと思うも意外と具材たっぷり充実感。完食して満足。

なお 120 バーツ請求された。多分ライスが 20 バーツなんだろう。別に構わない。



ウィークエンド・マーケットでぶらぶら



食事を終えると 10 時。では本格的に散策しよう。正午にショップにつくことを考え、あるいは渋滞する可能性を考えると 1 時間ほどしか歩けません。

広大な屋内には小さく分けられた店がぎっしり。区画と店に番号がついているが、区画が長方形に区分されているわけでもなく初めての場所では、「まったくわからん」としか言えない状態。

まあ 1 万 5 千の店があるらしいし目的の店がある

わけではないので、足の向くままにふらふらと。

同じ所はなるべく通らないようにはしました。

女房の土産に石鹼（135 バーツ）など購入するも、さすがに比較して安い店で買うとかは無理（笑）。見たところ値段はそんな極端に差はなかったようではあるのですが。同じジュースが別の屋台で、30 バーツと 20 バーツのことはありました。



古本屋など

ぶらぶら歩いて入口の所にある「象牙製品は買わない」看板を発見したりするうち、古本屋ばかりの区画を発見する。ほほう。

当然タイ製の本ばかりだが、日本の本を正規翻訳したらしい「マンガの描き方」やコミックスもあったのでチェックして「一騎当千」など購入する。



現地の漫画家が描いたような萌え漫画や萌え小説の表紙も見かけたものの、買ってみたら日本の翻訳ものでしたという話になったら嬉しくないの見送ることにする（ビニール本なので中は読めず）。まあどうせタイ語は分からないので中身は読めません。

なお店員に「DVD を売ってる店はないの」と聞いたところ、どうやら摘発され全滅した模様。ちえっ。ハヌマーンの実験版 DVD（タイだけに）とかないか期待したのに。

タクシーが盛大に迷走

11 時を 15 分ほど回ったので、正午に入店するにはそろそろかなとばかりにマーケットを離脱しタクシーを拾う。目的地はラートプラオ（Lat Phrao）78 番の通り。地図で見る限り、ここからは東に 3km ほど。まあ多少の渋滞があっても正午に着けるだろ。たぶん。あらかじめ英語住所を併記したグーグルマップのプリントアウト（目的地に赤丸）を持参したので楽勝と思ったのだが最初のタクシーに断られ、2 台目のタクシーにスマホ地図を紙と一緒に見せ「現在地はここ、目的地はここ」と示すと運転手のジジイは「OK O K」と答えたので依頼することにする。値段を聞くと 300 バーツ。ちょっと高いかと思ったものの相場観もつかめていなかったので千円かあと思いつつそのまま OK する。

自分の想定では、ここから北に少し行けばラートプラオ通りに出るので、あとはそこを 78 番まで行けばそれで終了だったのだがタクシーはいきなり南へ。??? と思いつつも、

地図を見て「なるほどスッティサーン（Sutthisan）通りからまっすぐ東に行くのかな」
とも思ったらスッティサーン通り交差点でも左折せずそのまま南下。目的地から遠ざかる
ばかりの展開に「どこに向かっているんだ？」と聞くと「行先が分からないので、聞く」と
答える。おいちよっと待て。目的地が分からないで引き受けて車を走らせてたのか。おい。
ガソリンスタンドでジジイは自分のプリントアウトを店員に見せ、その会話に自分も加
わってグーグルマップで拡大縮小して見せると、やっとジジイは目的地を把握し「ああ
ラートプラオ、ラートプラオね」とにこにこ。この時点で判明したのだがジジイは
アルファベットが読めずに Lat Phrao と書いてあっても理解していなかったのだ。
おそらく 300 バーツというのは「市内ならこの金額で OK」なのだろう。値切るべきかな。
タクシーは来た道に戻り、マーケットまで戻る。この時点で 20 分のロスタイム。正午に
店舗に着くのは難しいと判断したためヘッドジャッジに遅れるかもメールを送る。
あとはこのままマーケットの東側からラートプラオ通りに出ると思ったら、タクシーは
マーケットの西側を北上する。おい。聞くと「渋滞を避けるためこっちから行く」という
返事。確かにグーグル先生によると、マーケットの東側は赤い渋滞路で西側はそうでない
のだが、このまま西回りに北上するとラートプラオ通りに合流する前の道路も**真っ赤**
なのだが（涙）。ジジイはヘッドセットで誰かと会話しており渋滞情報を得ているらしい
ので、もしかしたらそっちの方がグーグル先生よりも正確なのかと思ったがそんなことは
なくグーグル先生の教え通り赤い所で渋滞。イライラして抜けるのを待つのみ。つらい。
ラートプラオ通りに入ると正午。ここまで来れば大丈夫かな、と思いつつ「オーケー。
あとはこのまま 78 番でおろしてくれ」と伝える。渋滞もなくすいすい進む。やれやれ。
ジジイも通りの番号を音読し、自分はグーグルマップで常に現在の通りと目的地を確認し、
78 番に来たので「よしここで停めて」と言うもジジイは車を停めない。「おい、停めて
くれよ」と言うもジジイは「まだ 69 番ね」とか言い出す。いやそうじゃなくて。

地図を見ると分かるのだが、東西の通りから入る横道の番号は「北側が奇数」「南側が
偶数」を割り当てるというルールらしい。そしてはなはだ理解に苦しむのだが、北側の
番号と南側の間には対応は取れておらず、実際に 78 番通り入口の向かいには 67 番通り
入口なのだ。これ、誰でも間違えるすごいトラップだと思う。スクンビット通りもこう
いう割り当てだったので、たぶんタイかバンコクの一般ルールっぽい。

ジジイに「違う、78 番の向かいが 67 番で通り過ぎた」と説明するとジジイは理解したようだが、しかしバンコク 2 日目のおいらも理解したこのルールをなんで地元のタクシーの運転ちゃんが理解していないのかな…とトホホな気分。そしてこういう時に限って渋滞でなくすいすい進んで大通りも超えて数百メートル進んでから U ターンを試みる羽目に。そしてそこから U ターンしようとしてまた渋滞（涙）。降りて歩くにはもうだいぶある距離。

ここでジジイが「大丈夫大丈夫」と言い出したのでさすがの自分も**ブチ切れ**て「大丈夫じゃねぇよ俺は正午に約束してたんだよそろそろ 12 時半だよ」と怒鳴る。もう 1 時間乗ってる。こんなことで遅刻不参加になったら目も当てられない。怒鳴っても事態は何も改善しないけど。さすがに気まずい空気になったまま、それでもタクシーは 78 番通りの入口に着いた。正直値切りたかったが「300 バーツだね？」と聞くと、ジジイはそのままうなずいたので支払って終了。

トコ風呂

自分がとうとう最後ブチ切れてしまったものの、基本陽気なジジイとはタクシーの会話はフレンドリーに進んでおりまして、そこで仕入れた小ネタをひとつ。



タクシーの窓ガラスにこんなアイコンが貼ってあったので「ははぁ」と思いながら、これはやはり「ギャンブル」や「性風俗」店への案内ができるよという意味なんだろうと思った。店の前まで案内するのか、それともジジイが女の子に電話をしてホテルに行く形式なのかな。

確かタイは公式に性風俗は合法だけどギャンブルはご法度でカジノもない筈だけど。

そこで渋滞待ちの時に、ジジイに「この OK アイコンはどういう意味だね？」と聞くと、ジジイは「シートポケットにファイルがあるよ」と教えてくれた。どれどれ…と手に取る。

「行くかね?」「今日はこれから用事だからそのうちね」という**ジェントリの会話**をしつつクリアファイルを開いてぱらぱらと眺める。

なるほどクリアファイルにはその手の店の案内が。ふむふむと眺めていた手がふと止まる。

マッサージに加えて「turkish bath」という文字が。

そっかぁ…日本では1984年のトココの留学生の抗議が実って「ソープランド」という名称に変わって久しく、すっかり死語である「トココ風呂」という表現が、まだタイでは残っていたのか…。



NX gallery に到着

そういえばサイトに78番通り以下の住所がなかったなと思いつつ78番通りを奥へ。ここで店が発見できないというオチはないだろうなぁと思いつつ進むと、ほどなく発見。12時36分入店。

よかった。0回戦ドロップはなくなった!

店内には10数名の客。どうやら不成立もなさそうだ。店員にPPTQに参加する予約済だいう旨を伝え、まずは飲食物をオーダーしてくれとのこと。歩いて汗だくなので即応。とりあえずはジュースを注文。お値段は40バーツ。喜んで支払う。食事は頼むかいと聞かれるも、まだそんなに腹は減っていなかったもので「あとで頼むかも」で。



飲食メニューが黒板で書いてあり、レジにはマジック関係の商品が並び、さらにマジック以外のアナログボードゲームも大量に並んでいる。ビデオゲームの筐体もある。



とてもいい雰囲気の店だと思いました。

ヘッドジャッジに会釈をするが、結局は普通に間に合い他のプレイヤーと話してもいるので、それ以上の会話は別にしませんでした。

発売された「イクサランの相克」バンドルが売っていたら買いたかったものの売り切れでした。

PPTQ 参加費 800 バーツにスリーブ 280 バーツ、ダイスセット 400 バーツなどを購入して待つ。

準備は万全。

ライフメモは、ウィザーズ提供のものを開始前に

店舗が希望者に必要なだけ配っていました。いいね！

構築開始

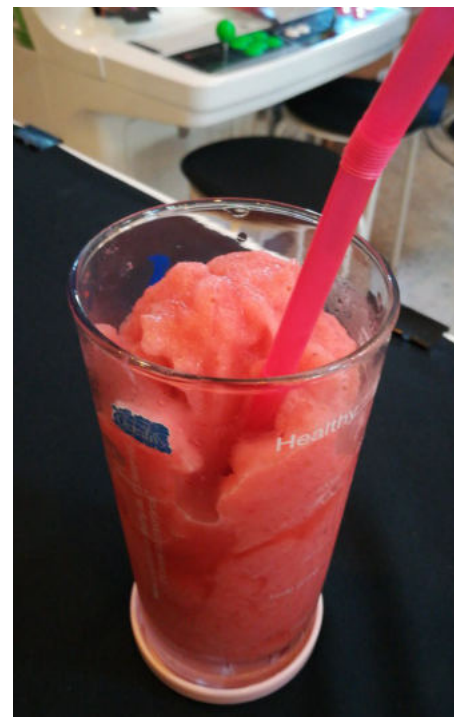
13 時を 15 分ほど回った頃ヘッドジャッジから「間もなく到着するプレイヤーを待っておりますので、もう少しお待ちください」とのアナウンス。うんうん店舗大会ではよくあること。

問題ありませんよジュースおいしいし待ちますよ。

13 時 40 分。プレイヤー登録も終わり構築テーブルが発表されたので移動する。参加者 27 名。

ジップロックに入ったパックとデッキ登録用紙がまず全員に配られ、さらに指示に従い片方のテーブルずつ交互に開封してレアなどの相互チェック。

そしてのち、いよいよデッキ構築の開始。さて。



高いレアはなし。明らかなボムは《不敬の行進》。素直に除去も多いので黒メインで、あとはやほりの白黒。

《覚醒の太陽の神官》
《提督の命令》(フォイル)
《クメーナの覚醒》
《凶兆艦隊の毒殺者》
《深海艦隊の船長》
《不敬の行進》
《沈黙の墓石》

取りレア

ただし吸血鬼シナジーはほとんどなく、恐竜も海賊もいる。チェックバックした向かいの人がエレンダを引いたので、「あれくらいは欲しかったな…」とは思いました。

とはいえクリーチャー 15 スペル 9 土地 16 の 2 色で軽めの構成。除去は多く白のバットリの 1 枚を抜いたくらい。

6 マナ以上の呪文がないのがむしろ気がかりかなあ…とは思ったくらい。

強くはないが、とはいえそこそこ善戦できるかな、とも。

さてどうなるかな。14 時 45 分、構築終了。答えはまもなく。目指せ決勝ドラフト。

惨敗

Round1 Passa さん 赤緑 ××

G1 オールランドマリガン→マリガンをして普通に土地 2 枚で始めたら、土地が 3 枚でしばらく止まって手札の噛み合いも悪くもじもじと→4 枚目の土地を引いたらそこからは土地しか引かない→土地を 10 枚まで引き続けて終了。

G2 マナフラ気味の所を有効打を連打されて終了。ライフ 5 までには返してるんだけど。

Round2 Bobarn さん 白黒 ×○×

G1 相手が 3 ターン目に《不敬の行進》を置く。あ、同型だ、と思ったw 割る手段もないし負けたかな、と思ったら相手はしばらく土地が 4 枚で止まってもじもじと。もしかして勝てるのでは、と思うもこちら打線が薄く、やがて相手は護符経由で 5 枚目の土地を持ってきたので投了。さすがに、こちらが圧倒的なクリーチャーを展開できているわけでもない状態で 3 体を除去されしかもそれを使われる未来では、勝てる目が見えません。

G2 《不敬の行進》対策に《蔓延する腐敗》をサイドイン。とはいえ、普通に向こうの事故で一方向的に殴り勝てました。

G3 向こうが《不敬の行進》を（略）

2敗はトップ8に1名入りそうだけど、さすがに人間0-2ではオポ的に目はないだろうし、心が折れたし残りはタイ観光でいいやとドロップし終了。16時15分に店を出る。これに参加するためにタイに来たのだとは**考えない**ことにしよう。いや実際、タイ楽しいしね。

プレイを通して考えたこと：

- ・まあ《不敬の行進》はやっぱボムでしょ。
- ・事故を別にすれば殴り負けなので、線の細い白黒でライフ回復手段が多くなかったし威迫持ちも多くなかったのが致命傷っぽい。そも吸血鬼デッキでない時点でお察し。
- ・あとこれは俺のプレイングが下手問題ではあるんですが、パワー3以下対象の除去は、しばしばバットリでパワーを上げられる呪文を使われて不発になりました。
- ・重くていいから確定除去がもう少し欲しかったです。
- ・てゆうかマナフラはダメ、ゼツタイ。

フワイクワーンでマッサージ

店を出て「これからノープランだけどどうしようかな」
と思います。何にせよ地下鉄のある駅まではタクシーで
行かねばなりません。

結論として現地風俗街は覗いておくべきであると思えた
ので、タクシーを拾い「フワイクワーン」（Huai
Khwang）駅を指定。

特に渋滞にもあわずに、南北に伸びるラッチャダーピ
セーク（ratchadaphisek）通りのフワイクワーン駅の
東側でおろされる。当初はそのまま周囲をぐるりと見渡してもその手の店が発見できず、



その後で歩道橋で通りの西側に移動したうえで、その手の店がある一角を発見できました。
あっ！この店は風俗情報ネットで名前を見たよ！

注：普通に写真を撮ってますけど実は店の前で撮影していると店員に怒られました。
「ソーリーソーリー」で済ませてデータを消せという話にも別になりませんでしたけど。

この店や奥の店の呼び込みの声を聞き流しつつ、ぶらぶらと歩く。日本語看板も多数。
実はそろそろ飯を食べる店がないかなとも思いつつ小一時間ほどもぶらぶら。



結局のところそれほど収穫はなかったので、最初のポイントに戻り、大通りの風俗でないタイ式のマッサージ店に（さっきの風俗店の手前ですね）。

ここは風俗店じゃないよねと一応確認しつつ
「タイ式マッサージ 1 時間 300 バーツ」を
オーダーする。

タイ式マッサージは普通に個室で足腰肩背中をばきばきやって貰い、他に書くべきことは
ありません。ミャンマーの相場を知らなければ「なんて安いんだタイ最高」となるお値段
です。途中で「スペシャルマッサージ」を勧められることもありませんでした（笑）。

ステーキで夕食

タイ式マッサージ店を出ると 18 時半。結局昼食は
取り損ねて空腹だし、もう薄暗いし、これは夕食を
がつつり飯でいいよねという結論になる。

MRT のフワイクワーン駅に入って、スクンビット駅
までの切符を買って乗る。23 バーツ。
フワイクワーン駅の 2 番出口から出て交差点に出て、





あとはホテル方向に通りを東へ。

まだおろし過ぎたバーツはたくさん余っているし、昨日から気になっていたステーキ屋に入ることにしました。

いまの腹具合ならいけるでしょう。

もう 19 時。飯を食ったら今日も終わりです。

ジュースとサーロインステーキの 250g を注文。

サラダやパンやライスは自分で取るバフェイ形式でした。

少し待って肉が来ました。

うんうん、おいしいようmg mg。幸せ。

しかし半分くらい平らげたあたりから肉の減るスピードが落ちてきたことに気がつく。こんなに腹減らし状態で入店した筈なのに。こんなにおいしいのに。僅か 250g なのに。



と思い自分の**老いっぷり**に呆然とする。もうおれの命は長くないんじゃないのかな。

もうエッチな店の前をひやかしても、心は踊れど全然下半身は反応しないしなあ。自分の人生が夕暮れになったことを感じる瞬間。

それはそれとして追加のミネラルウォーターを飲みつつ、おいしく完食。

お値段は税金等が 17%もついて 3225 バーツ！ さくっと諭吉越え。いいけど。

プロムポン駅前をぶらついて帰る

19 時半過ぎにはステーキ店を出ます。朝に発見した書店を目当てにプロムポン駅前まで足を延ばしてみると、まだ 20 時前なのに書店はシャッターをおろしていました。ちえー。少しプロムポン駅前をぶらぶらして（＝風俗街を冷やかしながら）コンビニで飲食物を買ってホテルに戻るともう 21 時過ぎ。シャワーを浴びだらだらネットをして今夜も終了。

2018年1月21日（日） 帰国日の朝

目覚ましをかけなくても7時前起床。23時に寝たんだっけか。結構、ぐっすり寝たな。今日の予定は、17時15分発の飛行機でバンコクを発つという以外の予定はない。従って昼過ぎまでのんびりしていて構いません。

一応は、事前の観光スポット調査で「恐竜博物館にでもいくか」とも思っていたのですが、正直別に行きたい気分でもなかったので「昨日行ったウィークエンドマーケットにはまだ行き足りないな」という結論に。バラエティには欠けるけど所詮は2泊3日の観光です。

では朝食はどうするか…ということで、ホテル朝食メニューのパンフレットを見ていたら「もうこれでいいや」という結論。昨日歩いた限りではホテルから駅前までの道は簡単な屋台くらいしか出ていなかったし、屋台飯ではマーケットの昼食（予定）とかぶります。朝飯だけのためにホテルを出て戻るのも面倒ですしね。

部屋へのデリバリーサービスをフロントに電話で問い合わせるも、そのようなサービスはないということだったので、8時の開店を待って1階に降りることにしました。

それまではネットでもして暇をつぶすことにします。

無料ホテルWifiの回線状態が大変に良いので、昨夜は部屋に帰ってMOクライアントをダウンロードしてドラフトリーグを始めていた（馬鹿）のですが、結局ピックだけしたら眠くなったので終了…とかやっていたことを思い出しました。

いつものマジック日記を書くも、0-2終了なだけに、これはただちに書き終わりました。

ホテルの朝食

8時を回ったので、服を着てから1階のカフェへ。ブレックファーストと、あとコーヒー。コーヒーは「Piccolo」というのが不明だったのでこれを頼ってみました。まあ、どうやらネットで調べたらただの「小さめのラテ」であるだけのようでした（笑）。



そして少し待たされ料理が届きます。半熟の目玉焼き（卵は2）と、ソーセージトマトベーコン。
トースト1枚。
うん普通においしいです。



完食して9時前に部屋へ。

345 バーツ。千円を超えてますけど別に目くじらたてる値段ではないですね。この安楽にお金を払ったというものでしょう。

のんびりしてからチェックアウト

部屋に戻り朝の薬をライチ茶で飲んでから、所用のメールを1本書く。このライチ茶は、20 バーツしない安さでおいしいので、こればかり買って飲んでます。なお言うまでもなく、これは「甘いお茶」です。てゆーか最初はライチジュースのつもりで買ってあとからお茶だと気が付いた（笑）くらいのジュースにしか感じられない甘さ。おいしいからウェルカム。

荷造りを済ませたらネットをして11時チェックアウト。カウンターでチェックアウトしたら、少し待つてと言われてスタッフがエレベーターに向かう。なるほど追加料金の有無。冷蔵庫の中身かな。問題あるまい。少しロビーで待ってから、特に追加料金は発生せず1000 バーツの返金。

すでに日が高く暑い。風俗マッサージの店の横を通りながら、プロムポン駅に向かいます。



本屋に寄ってからウイークエンドマーケットへ

プロムポン駅前のオタクっぽい本屋が開いていたので入る。3階が丸々コミックのフロアだったので上るも、置いてあったのはすべて日本で買えるコミックの輸入品の中古でした。これを買っても仕方ない。タイ版で翻訳された日本漫画が欲しかったのですけどね。レジを見るとヤングジャンプ等がたくさん並べてあり、最新号を輸入している模様。明らかにタイの駐在日本人に需要のある店なのでしょう。まあ現地漫画を置く店もどこかにはあるでしょうから、これは次にバンコクに来る時には調べてから来ようっと。

階段を上って駅へ。モチットまで44バーツ。車中、うっかりペットボトルを出して、飲もうとしてから気がついて、ネットで調べてやはりの車内飲食禁止ルールを知る。あぶない。

正午にモチット駅に到着。暑いです。半ズボンで来るのだったかなあタイ。そしてほどなくチャクチャク・ウイークエンド・マーケットに到着します。



マーケットで似顔絵を描いてもらう

では昨日同様に、お土産タイムふたたび。制限時間2時間かな。今度は少し本気度を上げて、女房にも連絡して「欲しいもの」などを伺いつつ購入。1時間くらいぶらぶらしつつ、香水とか石鹸とかを購入。ウイークエンドマーケットのブースは屋根のある建物を小区画に小分けしてあるのですが、時折物販とは別にマッサージのエリアが唐突にあったり、食事を出すエリアがあったり。食事エリアと衣服のエリアが隣接していたりもしたので「食べ物の匂いが服につかないのだろうか」とか考えたり（たぶん気にしても仕方ないのだろう）。

Tシャツを売る店とかは百軒以上はある感じだったので、購入基準を引き上げて、結局はあまり買いませんでした。ただ1枚100バーツなら寝間着のために買っていいですね。



そろそろ昼飯を食って出る算段をつけねば…と思いつつぶらぶら歩いていて似顔絵を描くブースを発見。10分で100バーツ。これはネタとしてやるしかないな…と中に入る。

中では10名ほどの似顔絵作家が作業をしていました。案内されるまま空いている席に座り、描いてもらう。こうなりました（本書の表紙）。

…まあ、**無難に美化**してあるよね。

バスで空港へ

そろそろ13時を回る。帰りのフライトは17時15分発。あくまで2時間前に空港に着いて空港まで1時間を見るなら、そろそろ出る算段をたてるべき時間でしょうね。

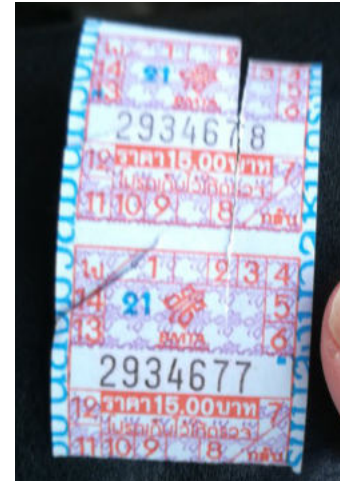
このため手早く残りの買い物を済ませて13時20分に、北の出口からマーケットを出ます。やっぱり楽しいなあマーケットぶらぶらは。次にいつかバンコクに来る時にも寄ろうかな。



正直な所「アジアマーケット」はミャンマーで毎日のように歩いているので、それほど観光メインにしなくて良いかなとも思っていたのですが、やはりタイのマーケットは格が違います。**観光客のあしらい**に慣れすぎています。楽しい。

さて空港へのバス乗り場は…と思って案内を見てA1乗り場であることを掌握したうえ、

それもほどなく発見。ちょうど発車するタイミングだったので、そそくさと乗車。13時35分。これはさすがに余裕でしょう。観光ガイドにはバスは後払いとありましたが、発車後ほどなくおばちゃんが売りに来たので購入。30バーツ。
うん、別にタクシーを利用しなくて正解でしたね。



ツイッターを読み書きしているうちに13時50分、空港に到着。しまった、渋滞に遭わず高速道路をびゅんびゅん飛ばしていたとはいえ、たった15分しか空港までかからないのか！
ちょっと出るのが早すぎたかもしれません。

搭乗手続き



ではチェックインしてイミグレを通るかと思ったら、目的のカウンターの前が**カオス**。カウンターの客さばきにトラブルがあったのか、これが平常なのか知りませんが、カウンター待ち列が通路にあふれており、割と最低だと思ったのは**最後尾が不明**。タイ・ライオンエアーの窓口で聞いても、並ぶ所が分からない方向を指し「あそこに並べ」と言うのみ。「どこに並んだら良いか分からないんだが」と声を荒げると、店員でない親切な人が教えてくれました。

人ごみをかき分けカウンター前のブロックに入り、さらにその中の列の最後尾に並びます（手前の人ごみ列はこのカウンター前の列ではなかったのかな。よくわかりません）。やはり1時間早く来て正解だったか…とも思うも、人があふれたため増設した窓口の所にできた列に並べたため、予想よりは早く14時半には自分のチケットが発券されました。

フードコートで昼食

搭乗まであと2時間。フライトはあと3時間。セキュリティ前に昼飯でいいと思ったので、2階のフードコートへ。大きな仮眠所コーナーなど横目に見て芸もなくマクドナルドに入る。でかいカップを渡され、ドリンクは飲み放題のデブ御用達仕様。



この歳になると「いくらでも飲める」というよりむしろ「飲みたいだけつげばいい」のが有難いなあとには思いました。海外仕様のLのコーラってたいい飲み切れず残すんだよね…コーラだけでなく、ファンタストロベリーとかも、ちょっとだけついで飲みました。おいちい。バーガーは完食するも、悪いがポテトを残して15時20分、マクドナルドを離脱。



無理に食べずにポテトを残したのは、途中で見かけたこのかき氷の店に入るためなものでした。マンゴーかき氷99バーツ。うむ。おいちいな。狙い通りフワフワ。このフワフワは、色と味からすると多分水じゃなくてミルクをベースにしてる。こりゃあいいや。99バーツなら安い。いい店だ。味わって食べて15時45分、食事終了。

帰国

なにごともなく16時にイミグレを通過し、その10分後にはセキュリティも通過。何度も乗り継ぎと夜明かしをしたドンムアン空港の出発エリアだが、こんな明るい時間に来るのは初めて。ま、適当に飲み物を買って時間を潰そう。機内飲みカルピスなど購入。

2番ゲートへと移動。すごい人ですね。前の便の搭乗がまだ16時30分でも終わらず自分たちの便の搭乗開始は16時45分。やはり、なかなか列が動かずに17時15分にシャトルバスに乗車。17時半、搭乗。



自分の座席がAなので「窓際か…」と思ったらなぜか先客が座っており、さらにAからCまですでに人が座っていました。このためこれ幸い

CAを呼び、自分の席はあそこのAだがあの人に出て貰わなくても自分が通路側の空席に座りますよという話をして、そのようにして貰いました。

機内でも普通に通信ができたものの、さすがに17時50分には通信を切りました。

それから何ごともなくフライトを終えてミャンマーに帰国（時計を30分戻します）。

前回帰国時にタクシーを拾った際には、空港からのタクシーは交渉制ではなく固定料金として8000チャット（約800円）を徴収されたものの（GPシンガポール2017本参照）、今夜は「係員」の姿は見当たりませんでした。このため普通に交渉を行ってタクシーは6000チャット（約600円）で決着し、夜の街を戻ります。

バンコクからミャンマーに帰ってやはり思ったのは「街の夜景が暗いなあ」（言葉通りの意味なんです）という感想。タイとミャンマーは文化圏はほぼ同じはずだけど、経済の差ってでかいですね。

やはりミャンマーを去る前にバンコクを見ておいたのは正解だと思った今回の旅行でした。

2013年のGPバンコクを最後になぜかGPが開かれていないタイですが（一説には、軍事政権の絡みであるとも言われています）、身の危険も感じずに治安も悪くなさそうですし、マジックも盛んなお国ですので、またGP開いてくれないかなそしたら是非また日本から遊びに来るのにとしつつ、本書を終えたいと思います。

（完）



Copyright:Google

本文にありますように、移動の基本は緑の BTS でのホテルからマーケットへの移動と、青の MRT でした。会場近くに MRT の駅がないのでやむなくタクシーを利用して酷い目にあいました。次にバンコクに来る時にはレンタル自転車を検討すべきかもしれません。

バンコク PPTQ ミネアポリス参加記 (v1.00)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2018年4月1日

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます

筆者（ひろじ）について：

<https://twitter.com/kondohi> （ツイッター。最近はここメインです）

<http://otakutalker.diarynote.jp/> （ダイアリーノート。マジック関連はここで）